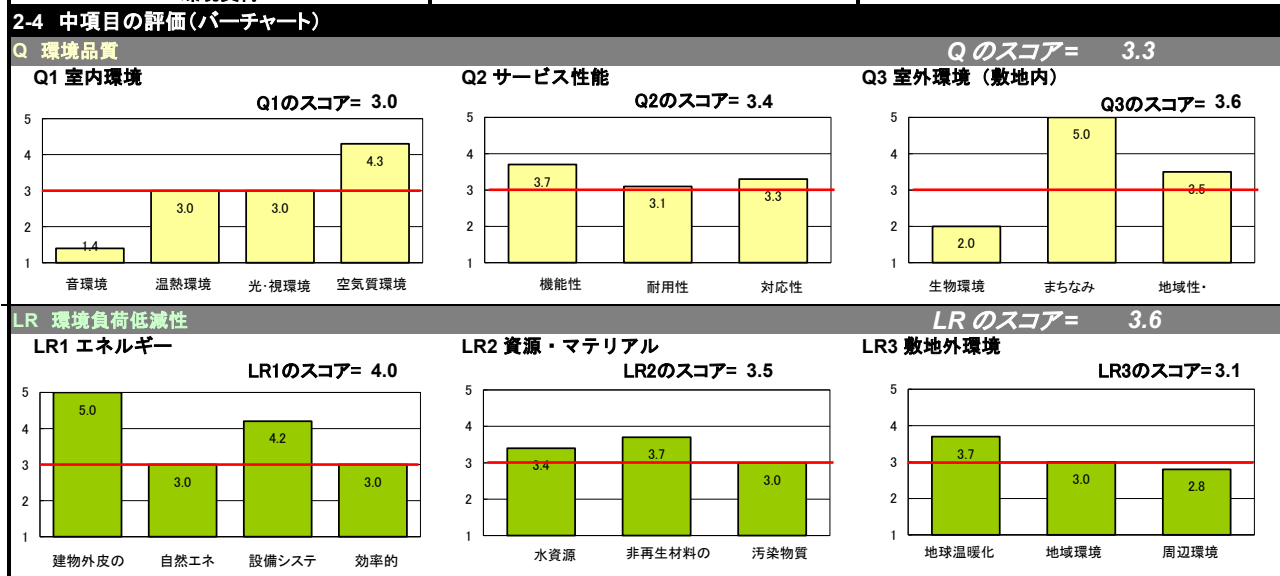
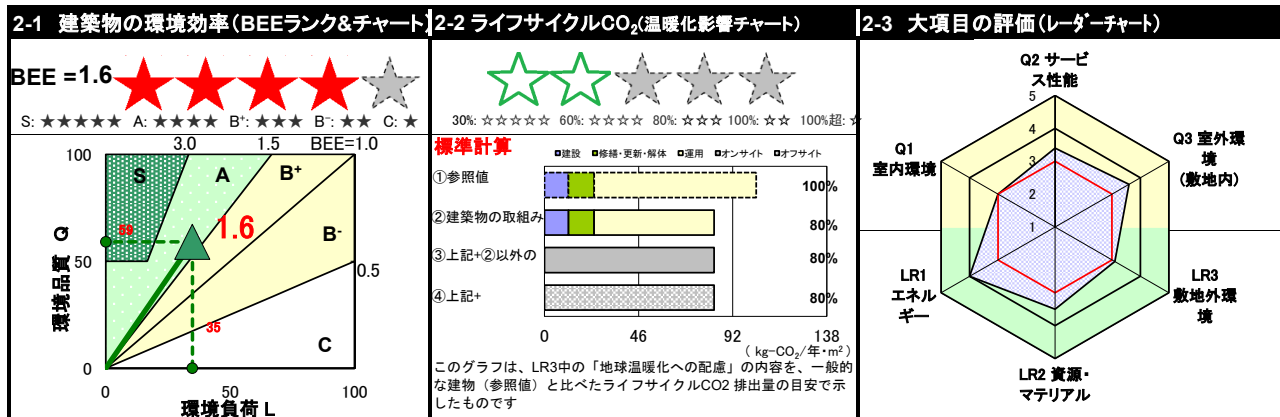


CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸アリーナプロジェクト	階数		
建設地	神戸市中央区新港町130番1、130番	構造		
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	物販店、飲食店、集会所	評価の段階		
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	23,694 m ²	作成者		
建築面積	12,267 m ²	確認日		
延床面積	32,204 m ²	確認者		



3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮
 3.0	 3.0	 5.0
	Q-2/2.4 信頼性	
	 3.8	
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要
0	「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」Ⅲ類 - 大屋根(アーチ部)は「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」Ⅰ類相当	- 景観協議による神戸市街並みとの調整を踏まえた計画 - 外構緑化指数の確保 - 建築バルコニー部を利用したビロティ空間や中高木による緑陰の確保 - 新港突堤西地区まちづくり条例に遵守した計画
その他の配慮事項		
0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)神戸アリーナプロジェクト

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.3
Q1 室内環境			0.40		-	3.0
1 音環境		1.4	0.15	-	-	1.4
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40	1.0	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	-	
2 界壁遮音性能		-	-	1.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	-	1.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	-	1.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	1.0	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	1.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	1.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	1.0	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	1.0	-	
2 方位別開口		-	-	1.0	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		1.0	-	1.0	-	
3.3 照度		-	-	1.0	-	
3.4 照明制御		3.0	1.00	1.0	-	
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-	4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	建基法規制対象外・VOC放散量が少ない建材を全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	アリーナ(中央管理式)は興行場法により36CMH/人を確保	5.0	0.50	1.0	-	
2 自然換気性能		-	-	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	1.0	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.4
1 機能性		3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	-	1.0	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	-	1.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	1.0	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	内装のコンセプト・機能が明確であり、照明計画を含めパース等で事前検証を実施。	5.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	評価する取り組みの内①②③⑥⑦⑧⑩を実施。	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	品確法における評価方法基準で投球相当としている。	4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気・高湿系排気は長寿命化を図り、ガルバリウムダクトを使用	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	重要度に応じた空調換気設備の系統の区分化、バックアップ	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水型器具、災害時の汚水の一時貯留、受水槽の緊急用取水口取付	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスB	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり		4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	-	-	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	4.0	1.00	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.6
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	4.2	0.50	-	-	4.2
4	効率的運用	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価	3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.7	0.60	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避	3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	-	-	-	
2	振動	-	-	-	-	
3	悪臭	3.0	1.00	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制	2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	